

検疫有害動植物候補56種の選定の根拠とするリスク分析結果

平成24年2月 消費・安全局植物防疫課
(横浜植物防疫所による分析結果に基づいて整理)

病害虫			対象植物		評価	侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目		用途	入り込みの可能性		定着の可能性		理由								
							評価	理由	評価	理由	評価		理由						
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①キャベツ・カリフラワーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-			否		
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	かぼちゃ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①かぼちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かぼちゃは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9-11mm、成虫の体長は雄が4.5-5.5mm、雌が5-7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が茎や葉、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	キャベツ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9-11mm、成虫の体長は雄が4.5-5.5mm、雌が5-7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が茎や葉、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	キャベツ(ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む)	野菜	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉を外部から食害し、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種は長距離移動する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は雄が4.5-5.5mm、雌が5-7mmで、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	きゅうり	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きゅうりは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9-11mm、成虫の体長は雄が4.5-5.5mm、雌が5-7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が茎や葉、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	すいか	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④すいかは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9-11mm、成虫の体長は雄が4.5-5.5mm、雌が5-7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が茎や葉、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由					
							理由	理由											
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9～11mm、成虫の体長は雄が4.5～5.5mm、雌が5～7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が花や果実を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	メロン	野菜	中	中	①メロンの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は外部から果実を食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種は長距離移動する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は雄が4.5～5.5mm、雌が5～7mmで、果実を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	西洋かぼちゃ	野菜	中	中	①西洋かぼちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は外部から果実を食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されるが、本種は長距離移動する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は雄が4.5～5.5mm、雌が5～7mmで、果実を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	1	<i>Acalymma vittatum</i>	コウチュウ目 ハムシ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根及び茎を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、1100～1400個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、成虫で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン、すいか等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として薬剤散布が有効である。日本では同科の害虫として、カタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、バラリツツハムシ、クロボシツツハムシの報告がある。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種成虫の直接の被害よりも、加害痕などから媒介されるErwinia tracheiphalalによる被害が重要視されている。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は9～11mm、成虫の体長は雄が4.5～5.5mm、雌が5～7mmである。幼虫が根及び茎を、成虫が茎や葉、花を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	いんげん	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①いんげん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕作的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①ボメロの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕作的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	評価	理由				
							理由	理由											
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①せいようすものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	さつまいも	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	さといも	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①さといもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中又は貯蔵中の生き残りの可能性について記載はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さといもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	さとうきび	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	しょうが	野菜	低	中	①しょうがの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④しょうがは消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。幼虫は根などを外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	だいこん	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							評価	理由		理由									
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	だいこん	野菜	低	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が根を外部から食害するため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④だいこんは消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。幼虫は根などを外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	だいこん	嗜好香辛料等	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部食害するとの記述はあるが、乾燥植物を加害するとの記述はなく、収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-		否		
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	なし風	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性について記載はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし風は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ばしう風	雑品	極低	低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は植物体を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばしう風は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は12.8mmであり、外部から葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ばら	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ばら属	切り花	低	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に關係する態は成虫である。成虫の体長は12.8mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ぶどう属	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に關係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	2	<i>Adoretus versutus</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	りんご属	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインド及びマダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③土壌中に1雌あたり約40個産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息し、ばら等木本植物の根を食害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種成虫は日本の主要作物であるばら属の葉を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。同属のコイチャコガネが日本に分布し、各種広葉樹を加害することが知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に關係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は12.8mmである。幼虫は根、成虫は葉を加害するが外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	3	<i>Aleurodicus cocosis</i>	カメムシ目 コナジラミ科	はしう属	雑品	極低	中	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④はしう属は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①本種の寄主であるコゴヤシやバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部(沖縄県等)では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	中	①コゴヤシ等作物の葉などを加害し、すす病を併発する。直接的影響は中程度。 (参考)②生物学的、耕種的及び化学的防除法が知られている。	日本の一部(沖縄県等) (理由: 本種の寄主植物が分布しているため。)	やし類以外の寄主に対する被害態態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.25mmであるが、葉の表面に集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。成虫は2-2.5mmであり、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	あずき	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①さきげ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の有害動植物管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④あずきは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	アボカド	生果実	高	高	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		評価	侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途		入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		理由					
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	きゅうり	野菜	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ココヤシ	生果実	高	高	①ココヤシの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	さくら属	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	さつまいも	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	さといも	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①さといものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中又は貯蔵中の生き残りの可能性について記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さといもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ししとうがらし	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①とうがらし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起す重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		評価		侵入の可能性		まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							理由	理由	理由	理由										
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	しとうがらし	野菜	中	中	①しとうがらしのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④しとうがらしは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は線状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	しとうがらし	嗜好香辛料等	無視	無視	①とうがらし属のマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否			
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ダリア属	栽培用球根	無視	無視	①球根を加害するとの記載はない。このことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否			
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	つつし属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①つつし属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④つつし属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は線状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	トマト	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は線状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	トマト	野菜	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は線状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は線状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性	危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価							理由
							評価	理由	評価	理由								
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばしう属	雑品	高	高	①パナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしう属は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばしう属	生果実	高	高	①パナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしう属生果実は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばら	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばら	栽培用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは苗木・種木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばら	切り花	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメシ目コナジラミ科	ばれいしよ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①なす属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしよは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゲコナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に關係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繭状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	理由	理由					
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ベゴニア属	栽培用植物	中	中	①ベゴニアのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・樹木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	マンゴウ	生果実	中	中	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	メロン	野菜	中	中	①メロンのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	レタス	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	レタス	野菜	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③レタスの結球部のすき間に寄生し、収穫、選別の過程で除去される可能性が極めて低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	4	<i>Aleurodicus dispersus</i>	カメムシ目 コナジラミ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面に微小な卵を14-26個、螺旋状に産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物である大豆、かんきつ類の葉や果実を吸汁加害し、落葉、収量の減少を起こす重要な害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアでは自国クイーンズランド州を検疫規制地域として指定し、本種のまん延を警戒している。生物学的、化学的防除法も開発されている。同科のミカントゴナジラミが日本に分布し、かんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は10℃以下で極めて高い死亡率を示すとの情報があるため、日本で冬期に生き残る可能性については不確実性が伴う。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.3mmであるが、集団でらせん状に産み付けられ、ろう状の分泌物が付着する。1齢幼虫も微小(約0.32mm)であるが動き回り、2齢幼虫以降は繻状の分泌物を付着させる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価 入込みの可能性		評価 定着の可能性		評価	理由	評価	理由	評価	理由				
昆虫	5	<i>Amblypelta cocophaga</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び栽培用植物	極低	高	①オレンジの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏面に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主植物であるももやメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジーに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるももやメロン、生長点及び茎を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアではココヤシの検疫病害虫に指定し、本種のまん延を警戒している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約2mmであり、葉の裏に産み付けられる。幼虫の大きさは3.5-13mmで成虫は14-15mmであり、果実や茎葉を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	5	<i>Amblypelta cocophaga</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	ココヤシ	生果実	極低	極低	①ココヤシの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離飛翔に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるももやメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジーに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるももやメロン、生長点及び茎を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアではココヤシの検疫病害虫に指定し、本種のまん延を警戒している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約2mmであり、葉の裏に産み付けられる。幼虫の大きさは3.5-13mmで成虫は14-15mmであり、果実や茎葉を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	5	<i>Amblypelta cocophaga</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	さくら属	栽培用種子及び栽培用植物	極低	高	①ももの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏面に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主植物であるももやメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジーに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるももやメロン、生長点及び茎を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアではココヤシの検疫病害虫に指定し、本種のまん延を警戒している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約2mmであり、葉の裏に産み付けられる。幼虫の大きさは3.5-13mmで成虫は14-15mmであり、果実や茎葉を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	5	<i>Amblypelta cocophaga</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	さとうきび	栽培用種子及び栽培用植物	極低	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏面に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主植物であるももやメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジーに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるももやメロン、生長点及び茎を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアではココヤシの検疫病害虫に指定し、本種のまん延を警戒している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約2mmであり、葉の裏に産み付けられる。幼虫の大きさは3.5-13mmで成虫は14-15mmであり、茎葉を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	いんげん	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももやメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②バブアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物であるいんげん、大豆等の莢を吸汁加害し、不良果や早期落果等の被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法等が用いられている。日本ではいんげん及び大豆を加害する同科のアズキヘリカメムシが分布している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.7mmで葉や花につまずり産み付けられる。幼虫および成虫は莢を吸汁加害する。成虫の体長は15mmとなる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	いんげん属	豆類	無視	無視	①いんげん属の主要な害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	カシューナッツ	嗜好香辛料等	無視	無視	①カシューナッツのマイナーな害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
								評価	理由	評価		理由			理由		理由		
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の重要作物であるいんげん、大豆等の莢を吸汁加害し、不良果や早期落果等の被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法等が用いられている。日本ではいんげん及び大豆を加害する同科のアズキヘリカメムシが分布している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.7mmで葉や花の一つずつ産み付けられる。幼虫および成虫は果実を吸汁加害する。成虫の体長は15mmとなる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	びわ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の重要作物であるいんげん、大豆等の莢を吸汁加害し、不良果や早期落果等の被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法等が用いられている。日本ではいんげん及び大豆を加害する同科のアズキヘリカメムシが分布している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.7mmで葉や花の一つずつ産み付けられる。幼虫および成虫は果実を吸汁加害する。成虫の体長は15mmとなる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	マカダミア	嗜好香辛料等	無視	無視	①マカダミアの主要な害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	無視	-	否		
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	大豆	豆類	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	無視	-	否		
昆虫	6	<i>Amblypelta lutescens</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の重要作物であるいんげん、大豆等の莢を吸汁加害し、不良果や早期落果等の被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法等が用いられている。日本ではいんげん及び大豆を加害する同科のアズキヘリカメムシが分布している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.7mmで葉や花の一つずつ産み付けられる。幼虫および成虫は莢を吸汁加害する。成虫の体長は15mmとなる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	7	<i>Amsacta moorei</i>	チョウ目 ヒトリガ科	すいか	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は葉に産み付けられるが、卵塊の付着した葉は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③500-1900個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹で休眠できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①本種は大豆の主要な害虫であり、葉を食害し、収穫量を減収させることがあり、直接的影響は高い。 (参考)②化学的、耕種、生物的防除法などがある。日本ではオオタバコガなどのヤガ科が本種と同様の加害を示す。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は葉に卵塊で産み付けられ、幼虫は葉を外側から食害する。初齢幼虫は1.25-1.5mm、終齢幼虫は約40mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	7	<i>Amsacta moorei</i>	チョウ目 ヒトリガ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は葉に産み付けられるが、卵塊の付着した葉は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③500-1900個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹で休眠できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種は大豆の主要な害虫であり、葉を食害し、収穫量を減収させることがあり、直接的影響は高い。 (参考)②化学的、耕種、生物的防除法などがある。日本ではオオタバコガなどのヤガ科が本種と同様の加害を示す。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は葉に卵塊で産み付けられ、幼虫は葉を外側から食害する。初齢幼虫は1.25-1.5mm、終齢幼虫は約40mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	7	Amsacta moorei	チョウ目 ヒトリガ科	とうもろこし	野菜	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は葉に産み付けられるが、卵塊の付着した葉は異常を示すことはないため収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③500-1900個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹で休眠できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種は大豆の主要な害虫であり、葉を食害し、収穫量を減少させることがあり、直接的影響は高い。 (参考)②化学的、耕種的、生物学的防除法などがある。日本ではオオタバコガなどのヤガ科が本種と同様の加害を示す。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は葉に卵塊で産み付けられ、幼虫は葉を外部から食害する。初齢幼虫は1.25-1.5mm、終齢幼虫は約40mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	7	Amsacta moorei	チョウ目 ヒトリガ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は葉に産み付けられるが、卵塊の付着した葉は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③500-1900個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹で休眠できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①本種は大豆の主要な害虫であり、葉を食害し、収穫量を減少させることがあり、直接的影響は高い。 (参考)②化学的、耕種的、生物学的防除法などがある。日本ではオオタバコガなどのヤガ科が本種と同様の加害を示す。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は葉に卵塊で産み付けられ、幼虫は葉を外部から食害する。初齢幼虫は1.25-1.5mm、終齢幼虫は約40mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	8	Anticarsia gemmatilis	チョウ目 ヤガ科	いんげん	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の裏に産卵するが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹が土中で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物である大豆等の葉や莢、莢を外部より加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、耕種的防除が用いられる。日本では多くのヤガ科が大豆の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵および幼虫である。卵は大きさが2mmで、葉に産み付けられる。幼虫は葉を外部から食害し、個体密度が高くなると莖や莢も食害する。終齢幼虫は体長が38mmとなり、土壌中で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	8	Anticarsia gemmatilis	チョウ目 ヤガ科	うまごやし属	雑品	無視	無視	①本種はうまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	8	Anticarsia gemmatilis	チョウ目 ヤガ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の裏に産卵するが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹が土中で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物である大豆等の葉や莢、莢を外部より加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、耕種的防除が用いられる。日本では多くのヤガ科が大豆の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵および幼虫である。卵は大きさが2mmで、葉に産み付けられる。幼虫は葉を外部から食害し、個体密度が高くなると莖や莢も食害する。終齢幼虫は体長が38mmとなり、土壌中で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	9	Aonidomytilus albus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	きく	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるきくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫の歩行により移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるきくに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②インドネシアは本種の侵入を警戒している。耕種的防除法、化学的防除法が用いられている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長が1.75-2.5mm、2齢幼虫の体長は10-1.25mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	9	<i>Aonidomytilus albus</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	きく属	栽植用植物	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・種木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるきくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫の歩行により移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるきくに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②インドネシアは本種の侵入を警戒している。耕種的防除法、化学的防除法が用いられている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.75-2.5mm、2齢幼虫の体長は1.0-1.25mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	9	<i>Aonidomytilus albus</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	きく属	切り花	極低	極低	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、本種は幼虫の歩行により短距離移動するため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるきくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫の歩行により移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるきくに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②インドネシアは本種の侵入を警戒している。耕種的防除法、化学的防除法が用いられている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.75-2.5mm、2齢幼虫の体長は1.0-1.25mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	9	<i>Aonidomytilus albus</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	なす	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なす属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるきくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫の歩行により移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるきくに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②インドネシアは本種の侵入を警戒している。耕種的防除法、化学的防除法が用いられている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.75-2.5mm、2齢幼虫の体長は1.0-1.25mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	9	<i>Aonidomytilus albus</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	ばれいしよ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なす属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしよは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるきくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫の歩行により移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるきくに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②インドネシアは本種の侵入を警戒している。耕種的防除法、化学的防除法が用いられている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.75-2.5mm、2齢幼虫の体長は1.0-1.25mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	かき	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすす病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかきを寄主植物とする同属のルビーローウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすす病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかきを寄主植物とする同属のルビーローウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	キウイフルーツ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	キウイフルーツ	生果実	極低	極低	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、生果実に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①あすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	ちや	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ちやのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちやは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	なし属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	なす	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なす属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすず病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じかきを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性	評価	理由	評価	理由	評価	理由				
							理由		理由										
昆虫	10	<i>Ceroplastes destructor</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	はれいしよ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なす属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はれいしよは栽植用植物として輸入されることから、本種が寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかきでは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ニールランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④かき等寄主植物の茎等で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かき等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。果実にすく病を併発し、商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵利用、化学的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかを寄主植物とする同属のルビーロウムシが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の体長は0.3-1.2mm、雌成虫の体長は2.5-6.4mmであり、葉、枝、茎に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	アボカド	生果実	極低	極低	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	かんきつ属	生果実	極低	極低	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	キウイフルーツ	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	キウイフルーツ	生果実	極低	極低	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
								評価	理由	理由		理由			理由		理由		
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	きつた属	栽培用種子及 び栽培用植物	中	中	①きつた属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きつた属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	こしょう	嗜好香辛料等	無視	無視	①こしょうのマイナーな害虫であり、生育中の果実を加害するとの記載はあるものの、乾燥果実を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	さくら属	栽培用種子及 び栽培用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	さつまいも	栽培用種子及 び栽培用植物	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	なし属	栽培用種子及 び栽培用植物	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラ ムシ科	ばしょう属	雑品	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	まん延の可能性						
							評価	理由		理由	理由								
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	はしろう属	生果実	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はしろう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	ピスタチオ	嗜好香辛料等	無視	無視	①ピスタチオのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は収穫後の乾燥処理等によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	ぶどう	生果実	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	ぶどう属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	マンゴウ	生果実	極低	極低	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、キウイフルーツは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、トルコ、南アフリカ、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③800-1500個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつの葉、茎及び果実を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②旧ソ連では輸入禁止対象害虫となっている。化学的防除法が開発されている。同属のカメノコロウムシやルビーロウムシが国内ではかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は 3.5x4mmでロウ状の殻に覆われている。本種の歩行は初齢幼虫時に限られる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	11	<i>Ceroplastes rusci</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	米材	木材	無視	無視	①本種はさらに属のマイナーな害虫であるが、主幹に寄生しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	理由	理由	理由				
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	うしのけぐさ属	雑品	低	低	①うしのけぐさ属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3-3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	えん麦	雑品	低	低	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥・加圧により生存率に影響をあたえと考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④えん麦は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3-3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	おおむぎ属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①おおむぎ属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。直径約0.2mmの卵が植物の根元に産み付けられる可能性がある。幼虫の体長は初齢幼虫で約1mmであるが、終齢幼虫で約3mmまで成長する。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、幼虫は根を、成虫は葉を外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	かもがや属	雑品	低	低	①かもがや属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④かもがや属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3-3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	きび属	雑品	低	低	①きび属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3-3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	ギョウギシバ属	雑品	低	低	①ギョウギシバ属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度（参考）②南アフリカで本種を検疫有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3-3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							評価	理由	評価	理由		評価	理由							
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	こむぎ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。直径約0.2mmの卵が植物の根元に産み付けられる可能性がある。幼虫の体長は初齢幼虫で約1mmであるが、終齢幼虫で約3mmまで成長する。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、幼虫は根を、成虫は葉を外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	こむぎ属	雑品	低	低	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥・加圧により生存率に影響をあたえと考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	スターダグラス	雑品	低	低	①スターダグラスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥・加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④スターダグラスは牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	チモシー	雑品	低	低	①チモシーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥・加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チモシーは牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	とうもろこし	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。直径約0.2mmの卵が植物の根元に産み付けられる可能性がある。幼虫の体長は初齢幼虫で約1mmであるが、終齢幼虫で約3mmまで成長する。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、幼虫は根を、成虫は葉を外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	12	<i>Chaetocnema pulicaria</i>	コウチュウ目ハムシ科	どくむぎ属	雑品	低	低	①イタリアンライグラスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥・加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④イタリアンライグラスは牧草として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	中	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしの葉を加害するが、個体群密度が大きくなった場合に、被害を与える可能性がある。直接の影響は中程度。 (参考)②南アフリカで本種を検査有害動物としている。防除法としては化学的防除、抵抗性品種等が開発されている。我が国ではトウモロコシの害虫として、ヒメサクラコガネやヒメコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は1.3～3.5mmであり、寄主植物に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	あぶらな属	雑品	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に発生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-		否				

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							理由	理由											
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の茎葉に微小な卵を一つずつ産み付け、生育期に幼虫が植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵・幼虫及び蛹は収穫後の乾燥・加圧・粉碎等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-			否			
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	アボカド	生果実	中	中	①アボカドのマイナーな害虫であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外側から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	種高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	種高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵・幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	いんげん	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	種高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	種高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵・幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	いんげん属	豆類	無視	無視	①いんげん属の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-			否			
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	うまごやし属	雑品	無視	無視	①うまごやし属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外側から食害し、乾燥・加圧により死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-			否			
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	えんどう豆	豆類	無視	無視	①えんどう豆の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-			否			

病害虫				対象植物		侵入の可能性			まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果		
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		評価	理由		評価	理由						
							理由	理由											
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	カーネーション	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	かぼちゃ	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	きく	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	きく属	栽培用植物	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を一つずつ茎、葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木で輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	キャベツ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	キャベツ(ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む)	野菜	中	中	①ブロッコリー、キャベツのマイナーな害虫のため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を一つずつ茎、葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							評価	理由		評価	理由								
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	きゅうり	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①きゅうりの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。（参考）②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	さつまいも	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。（参考）②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	さとうきび	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。（参考）②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	ししとうがらし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。（参考）②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	ししとうがらし	野菜	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。（参考）②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。老熟幼虫は最大35mmと比較的大型で、果実を外部から食害する。輸出入検査（目視検査）で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	ししとうがらし	嗜好香辛料等	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	すいか	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	セロリ	栽培用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	セロリ	野菜	中	中	①セロリのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の裏側に卵を産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④セロリは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	だいこん	栽培用種子及び栽培用植物	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	だいこん	嗜好香辛料等	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の茎葉に微小な卵を一つずつ産み付け、生育期に幼虫が植物体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を食害するとの記述はなく、卵、幼虫及び蛹は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	たばこ属	嗜好香辛料等	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外部から食害し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							理由	理由		理由									
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	とうもろこし属	栽培用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	(理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	トマト	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	トマト	野菜	中	中	①トマトの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。老熟幼虫は最大35mmと比較的大型で、果実を外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	なす	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	なでしこ属	切り花	中	中	①本種はカーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を一つずつ茎、葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		理由					理由
							理由	理由		理由										
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	にんじん	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①にんじんの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	はくさい	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、はくさいへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	はれいしょ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①はれいしょのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はれいしょは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	ベゴニア属	栽培用植物	中	中	①ベゴニアのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を一つずつ茎、葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	メロン	野菜	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、メロンへの寄生は不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は果実を外側から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④メロンは消費品として輸入され、本種成虫は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。老熟幼虫は最大35mmと比較的大型で、果実を外側から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	モロコシ属	栽培用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	レタス	栽培用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
								評価	理由	評価		理由			理由		理由		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	レタス	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①レタスの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	レタス	野菜	中	中	①レタスの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を一つずつ葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	わた風	雑品	無視	無視	①わた風の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	穀類	穀類	無視	無視	①とうもろこし、モロコシの主要な害虫であり、生育中の種子に寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はなし。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	西洋かぼちゃ	野菜	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、西洋かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。老熟幼虫は最大35mmと比較的大型で、果実を外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	大豆	豆類	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目ヤガ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、それによりその葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、数百個の卵を葉裏等に産卵するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④当該種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、蛹で越冬可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が実施されている。日本には本種の寄主植物であるトママを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、老熟幼虫は35mm、蛹が16mmであり、卵は葉裏に産み付けられ、幼虫は虫糞を排出しながら外部から植物を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	13	<i>Chrysodeixis includens</i>	チョウ目 ヤガ科	落花生	豆類	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	いんげん	栽培用種子及び栽培用植物	極低	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉や苗の表面に塊で産みつけるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるいんげんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリア、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に5-15個の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物のほとんどが一年生植物で、利用可能な寄主が存在しない期間があり、その間生存困難であることから、日本で生き残る可能性は低い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんの子実を変形・変色させ、減収や品質の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法の適用や、抵抗性品種が栽培されている。また、日本では同科のホソハリカメムシ、ハラビロヘリカメムシ、アズキヘリカメムシが同様に豆類の子実を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは不明であるが、葉や莢の上に卵塊で産み付けられる。若齢幼虫は集団で組織から吸汁し、終齢幼虫や成虫は莢から子実を吸汁加害する。成虫の大きさは8.8-10.2mmで雌成虫の方が大きい。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	いんげん属	豆類	無視	無視	①いんげんまめの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	ささげ	豆類	無視	無視	①ささげの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	ひよこ豆	豆類	無視	無視	①ひよこ豆のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	ほうれん草	栽培用種子及び栽培用植物	極低	中	①ほうれん草の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉や苗の表面に塊で産みつけるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるいんげんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリア、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に5-15個の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物のほとんどが一年生植物で、利用可能な寄主が存在しない期間があり、その間生存困難であることから、日本で生き残る可能性は低い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんの子実を変形・変色させ、減収や品質の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法の適用や、抵抗性品種が栽培されている。また、日本では同科のホソハリカメムシ、ハラビロヘリカメムシ、アズキヘリカメムシが同様に豆類の子実を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは不明であるが、葉や莢の上に卵塊で産み付けられる。幼虫及び成虫が外部から吸汁加害する。成虫の大きさは8.8-10.2mmで雌成虫の方が大きい。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	わた属	雑品	無視	無視	①わた属のマイナーな害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	大豆	豆類	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-			無視	-			否	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
						評価	理由		評価	理由		評価	理由		評価	理由			
昆虫	14	<i>Clavigralla tomentosicollis</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉や苗の表面に塊で産みつけるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるいんげんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリア、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に5-15個の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物のほとんどが一年生植物で、利用可能な寄主が存在しない期間があり、その間生存困難であることから、日本で生き残る可能性は低い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんの子実を变形・変色させ、減収や品質の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法の適用や、抵抗性品種が栽培されている。また、日本では同科のホソハリカメムシ、ハラビロヘリカメムシ、アズキヘリカメムシが同様に豆類の子実を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての卵が経路に関係する。卵の大きさは不明であるが、葉や莢の上に卵塊で産み付けられる。若齢幼虫は集団で組織から吸汁し、終齢幼虫や成虫は莢から子実を吸汁加害する。成虫の大きさは8.8-10.2mmで雌成虫の方が大きい。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に葉、根等を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉碎等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 *無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	経路に関係する卵は成虫である。体長は11mmであり、寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	うしのけぐさ属	雑品	低	低	①うしのけぐさ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する卵は成虫である。体長は11mmであり、寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	かもがや属	雑品	低	低	①かもがや属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④かもがや属は牧草として輸入されるが、本種の成虫は中距離飛翔する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する卵は成虫である。体長は11mmであり、寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	キウイフルーツ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する卵は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	キャベツ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する卵は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	さくら属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物的防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	どくむぎ属	雑品	低	低	①ペレニアルライグラスの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ペレニアルライグラスは牧草として輸入されるが、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物的防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。体長は11mmであり、寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	はくさい	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はくさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物的防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ぶどう属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物的防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	15	<i>Costelytra zealandica</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を加害するが、外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹は土壤中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離を飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①幼虫は牧草類、ぶどうを食害し、減収等の被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種の防除法のほか、昆虫寄生性細菌であるSerratia entomophilaによる生物的防除法等が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫は平均18mm、成虫の体長は約11mmで、寄主植物の根や葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	16	<i>Cricula trifenestrata</i>	チョウ目 ヤママユガ科	ちゃ	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①ちゃのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるちゃは北海道を除く全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に89-253個の卵を生みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちゃを寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①本種はマンガウの葉を群生して食害し、激しく加害したときは果実がつかなくなるなど減収を引き起こすため、直接的影響は中程度。 (参考)②物理的防除法、生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは1.98×1.52mmであり、葉の背側縁に沿って2列で産み付けられる。1齢幼虫は体長3.72mmであり、寄主植物の葉を外部から食害する。また、食害していない葉の上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性	評価	理由		理由	理由	理由				
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	いんげん	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	さつまいも	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	さとうきび	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ししとうがらし	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	セロリ	野菜	極低	極低	①セロリのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④セロリは消費用として輸入され、本種の成虫は短距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.0mm x 0.4mmである。幼虫及び成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							評価	理由		評価	理由								
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	とうもろこし	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	はしろう属	雑品	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④はしろう属は消費用として輸入され、本種の成虫は短距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種防除、生物的防除法、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.0mmx 0.4mmである。幼虫及び成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	17	<i>Diaprepes abbreviatus</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	はれいしよ	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①はれいしよのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はれいしよは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるとうもろこし、さとうきびは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ドミニカ共和国等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けたため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつを加害し、越冬も可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこし、さとうきびに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接の影響は極めて高い。 (参考)②同属のD. abbreviatusに対する生物的防除及び化学的防除法が本種に対しても適当であるとされている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは約1.2mm x 0.4mmであり葉の間に粘着物質とともに産み付けられる。幼虫の大きさは最大1.5-2.5cmである。幼虫は根、成虫は葉を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	18	<i>Diaprepes splengleri</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は微小であるが、産卵された葉は粘着性の物質により重ね合わせられ、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は多年生植物であるばらを寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるばらに対して被害を及ぼすため、直接の影響は高い。 (参考)②同属のD. abbreviatusに対する生物的防除及び化学的防除法が本種に対しても適当であるとされている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは直径約1.2mmであり、2枚の葉をあわせて中に産み付けられる。幼虫及び成虫は寄主植物を外部から加害する。成虫の体長9-16mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	18	<i>Diaprepes splengleri</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	さとうきび	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は微小であるが、産卵された葉は粘着性の物質により重ね合わせられ、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は多年生植物であるばらを寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるばらに対して被害を及ぼすため、直接の影響は高い。 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは直径約1.2mmであり、2枚の葉をあわせて中に産み付けられる。幼虫及び成虫は寄主植物を外部から加害する。成虫の体長9-16mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		まん延の可能性						
							評価	理由	評価	理由			評価	理由					
昆虫	18	<i>Diaprepes splendleri</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ばら	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は微小であるが、産卵された葉は粘着性の物質により重ね合わせられ、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は多年生植物であるばらを寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるばらに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②同属のD. abbreviatusに対する生物学的防除及び化学的防除法が本種に対しても適当であるとされている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは直径約1.2mmであり、2枚の葉をあわせた中に産み付けられる。幼虫及び成虫は寄主植物を外部から加害する。成虫の体長9-16mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	18	<i>Diaprepes splendleri</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ばら属	切り花	低	中	①本種はばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は微小であるが、産卵された葉は粘着性の物質により重ね合わせられ、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は多年生植物であるばらを寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるばらに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②同属のD. abbreviatusに対する生物学的防除及び化学的防除法が本種に対しても適当であるとされている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは直径約1.2mmであり、2枚の葉をあわせた中に産み付けられる。幼虫及び成虫は寄主植物を外部から加害する。成虫の体長9-16mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメシ目カメシ科	いんげん	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物学的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメシ目カメシ科	うまごやし属	雑品	低	低	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えたと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物学的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫は体長11.8-13.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメシ目カメシ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物学的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメシ目カメシ科	ししとうがらし	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物学的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	どうもろこし	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①どうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④どうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	どくむぎ属	雑品	低	低	①どくむぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えたと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④どくむぎ属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫は体長11.8-13.3mmであり、寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	トマト	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	ばれいしよ	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①ばれいしよの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしよは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	19	<i>Edessa mediatubunda</i>	カメムシ目 カメムシ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物である大豆及びトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落ち葉の下等で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①日本の重要作物である大豆に被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除が用いられる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5×1.3mmであり、卵塊で葉裏に産卵し、成虫、幼虫は寄主植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	理由	理由	理由				
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	いちご	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	うまごやし属	雑品	低	低	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加湿により生存率に影響をあたえるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	カーネーション	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	きく	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	きく属	栽培用植物	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・種木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	きく属	切り花	中	中	①きく属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に100卵以上の卵塊を産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるきくは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるきくは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性	評価	理由		理由	理由	理由				
							評価	理由	理由										
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	なでしこ属	栽植用植物	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・樹木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	ばら	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	ばら属	栽植用植物	中	中	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	20	<i>Epichoristodes acerbella</i>	チョウ目 ハマキガ科	ペラルゴニウム属	栽植用植物	高	高	①ペラルゴニウム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペラルゴニウム属は苗木・樹木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の裏などに卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物であるさくらは多年生であり、年間を通じて存在する。また、幼虫で越冬する。このため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離を飛翔する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション、きく等の作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉、茎及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。アイスランド共和国は本種の付着する植物の輸入を禁止している。トルコ共和国は本種の付着する荷口を輸入禁止にしている。化学的防除法が開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、卵塊で葉上に産み付けられる。幼虫は若葉や花芽に穴を開けたり、糸を吐いたり、虫糞を生じる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	まん延の可能性		評価	理由				
							理由	理由	理由	理由									
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	さくらんぼ	生果実	極低	極低	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫の短距離移動に限られていることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	さくら属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	なし属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	ベルシヤグルミ	嗜好香辛料等	無視	無視	①ベルシヤグルミの主要な害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	みずき属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④みずき属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①りんご属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	21	<i>Epidiaspis leperii</i>	カメムシ目 マルカイガラムシ科	米科	木材	極低	極低	①さくら属及びくるみの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、木材は有害動物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④米科は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫の短距離歩行に限られていることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、フランスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は20-90個の卵を産むことができることから、繁殖能力は極めて高い。 ④くるみ、りんご、ももなどの果樹類の枝なども寄主として利用できることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離歩行することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。エジプト・アラブ共和国は本種が寄生している植物を輸入禁止している。日本では同科のナシ・マルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の大きさは直径約0.75～1.6mmであり、幼虫はこれより小さい。寄主植物の外部に寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	評価					理由
							評価	理由	評価	理由										
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	かえで属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①こぶかえでの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラタカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	こなら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラタカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラタカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	なし属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラタカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	ぶどう属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	みずき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラタカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmでロウ状の殻に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		理由				
							評価	理由		理由			理由		理由				
昆虫	22	<i>Eulecanium tiliae</i>	カメムシ目 カタカイガラムシ科	りんご属	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているが、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、スイスに分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④2齢幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②初齢幼虫のみ歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	高	①本種は日本の主要作物であるももの葉を吸汁し、収量の減少を生じさせる可能性が高く、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法がある。日本には本種と同様ももを加害する同属のヒラカタカイガラムシが発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは0.5mm、幼虫の体長は0.6-2.0mm、成虫の体長は4.0-6.5mmで口吻の腹に覆われ、葉に外部寄生する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	かえで属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①かえで属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえで属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の形で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご、なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	くり	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④くりは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の形で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご、なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	こなら属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の形で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご、なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	さくら属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①さくら属の主要な寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の形で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご、なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	なし属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の形で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご、なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							評価	理由	評価	理由		評価	理由							
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	ばら	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ドクグロースのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	ばら属	栽植用植物	中	中	①ばらのマイナーな寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付けるが、卵塊を産み付けられた葉や枝は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	ぶどう属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	ぶな属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	みずき属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して果を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							理由	理由											
昆虫	23	<i>Euproctis chrysorrhoea</i>	チョウ目 ドクガ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉や枝に卵塊を産み付け、金色の糸で覆うため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物のりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、イタリア、スペイン、スイス、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に100-400個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④枝や葉を利用して巣を作り幼虫の態で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により中距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、なし、さくらんぼの葉を食害し、重要な被害を与える。また、さくら属にも被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②米国ではFederal Domestic Quarantine Actで本種をマイマイガとともに森林害虫に指定している。国内では同属のドクガがりんご・なしを加害。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び成虫である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や葉に卵塊で産み付けられる。幼虫は寄主植物の葉や枝を折りたたんで巣を作る。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	24	<i>Planococcoides njalensis</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	パイナップル	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①パイナップルのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップルは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるマンゴウは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②コンゴ、ギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物にコロニーを形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④適年栽培されるパイナップルに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はカカオの果実を吸汁する。(参考)②生物学的、化学的防除法が報告されている。国内では同科のパイナップルコナカイガラムシがパイナップルを加害する。	北海道・東北を除く日本全域 (理由: 本種の寄主植物が分布しているため。)	パイナップルへの被害に関する詳細な記載はない。 本種はカカオに被害を及ぼすCocoa swollen shoot virus(CSSV)の主要なベクターであり、CSSVによる減収率は25-30%に達する。	要	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①キャベツ・カリフラワーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生し、収穫後の乾燥処理等によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	いちご	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちごは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い適年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接の影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	えん麦	雑品	無視	無視	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	おおむぎ属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い適年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接の影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性	評価	理由		理由	理由	理由				
							評価	理由	理由		理由								
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	カーネーション	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることが、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	かぼちゃ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かぼちゃ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることが、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	きく	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きくは栽植用植物として輸入されることが、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	きく属	栽植用植物	中	中	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きく属は苗木・種木として輸入されることが、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	きく属	切り花	無視	無視	①本種はきく属の主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	きび属	雑品	無視	無視	①きび属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	キャベツ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることが、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由	理由					
							理由	理由											
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	キャベツ(ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む)	野菜	中	中	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	きゅうり	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きゅうりは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ギョウギシバ属	雑品	無視	無視	①ギョウギシバ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	無視	-		否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	グラジオラス属	栽培用球根	中	中	①グラジオラス属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であり、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④グラジオラス属は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	こむぎ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	こむぎ属	雑品	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	無視	-		否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	まん延の可能性		評価	理由					
							理由	理由	理由	理由										
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	さつまいも	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	ししとうがらし	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ししとうがらし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	だいこん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①だいこん属植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	だいこん	野菜	中	中	①だいこん属植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、成虫の大きさは約35～46mmであるため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④だいこんは消費用として輸入されるが、本種の成虫の飛翔能力は長距離であることから寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	だいこん	嗜好香辛料等	無視	無視	①だいこん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	否					

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由	理由					
							評価	理由	理由										
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	たばこ属	嗜好香辛料等	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-			否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	たまねぎ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	たまねぎ	野菜	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	チューリップ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①チューリップ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④チューリップ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	チューリップ属	栽培用球根	中	中	①チューリップ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生であるため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④チューリップ属は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	チューリップ属	切り花	無視	無視	①本種はチューリップの主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-			否		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	てんさい	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④てんさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							理由	理由	理由	理由		理由	理由	理由	理由					
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	どうもろこし	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①どうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④どうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	トマト	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	なし属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	なす	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	なでしこ属	栽植用植物	中	中	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	なでしこ属	切り花	無視	無視	①本種はカーネーションの主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-		否			
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	にんじん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種の防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性			まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由						評価
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由			
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	にんじん	野菜	中	中	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であるため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④にんじんは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ねぎ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ねぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ねぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ねぎ風	栽培用球根	中	中	①ねぎ風植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ねぎ風植物は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ばら	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ばら風	栽培用植物	中	中	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら風は苗木・種木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ばら風	切り花	無視	無視	①本種はばら風属のマイナーな害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	-	-	-	-	否	-	
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	バッタ目 ケラ科	ばれいしょ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も長い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は35mm-46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
								評価	理由	評価		理由			理由		理由		
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	ぶどう属	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①ぶどう属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	ホップ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ホップの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	レタス	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	レタス	野菜	中	中	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であるため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が主に地下部を加害するが、外部寄生性であり、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は土中に坑道を掘り、その内部に100～200個、多いときは600～700個産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫及び幼虫が主に地中で生活、越冬も行い通年発生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①カーネーションや野菜など日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。また、ヨーロッパや西アジア等の作物において重要な多食性の害虫であり、根、球根等を加害することから直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア及びニュージーランドにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、IPMが開発されており、モニタリングも可能となっている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長が35mm～46mm、幼虫の体長は不明だが、卵が2.2mm程度であることから、それ以上の体長であると考えられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	25	<i>Gryllotalpa gryllotalpa</i>	ハツタ目 ケラ科	米材	木材	無視	無視	①さくら属のマイナーな害虫であるが、本種はほとんどを地中で生活して寄主植物の根、球根等を加害し、木材を加害することはないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	無視	-	否			

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	まん延の可能性		理由					理由
							理由	理由		理由	理由									
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	かえて属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①かえて属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえて属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	からまつ属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①からまつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	こなら属	栽植用種子及び 栽植用植物	高	高	①こなら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	さくら属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	ぶな属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シャクガ科	まつ属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①バックスまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず。傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価		入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シヤクガ科	もみ属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①もみ属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物上に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④もみ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵の大きさは約1mmで幹に産み付けられ、幼虫は葉を食害する。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に産み付けられて蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	26	<i>Lambdina fiscellaria</i>	チョウ目 シヤクガ科	米材	木材	極低	極低	①もみ属、とうひ属等の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入され、成虫は短距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主である、まつ属やとうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は60～300個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なまつ属やとうひ属に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は短距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な樹木であるまつ属やとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物学的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び蛹である。蛹は長さ11～20mmで、樹皮の割れ目に産み付けられて蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	27	<i>Macroplectra nararia</i>	チョウ目 イラガ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉に数個産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるやは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③本種は約500個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるやは寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種の幼虫は日本の主要作物であるちやの葉を加害し、時に大きな被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②物理的防除法、化学的防除法生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は1.25×1mmの扁平な卵を1卵ずつ葉の表面に産卵する。老熟幼虫の体長は1.25cmで葉を外側から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	27	<i>Macroplectra nararia</i>	チョウ目 イラガ科	ちや	栽培用種子及び 栽培用植物	中	高	①ちやの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちやは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるやは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③本種は約500個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるやは寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種の幼虫は日本の主要作物であるちやの葉を加害し、時に大きな被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②物理的防除法、化学的防除法生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は1.25×1mmの扁平な卵を1卵ずつ葉の表面に産卵する。老熟幼虫の体長は1.25cmで葉を外側から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	27	<i>Macroplectra nararia</i>	チョウ目 イラガ科	ばしう属	雑品	低	中	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉に数個産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしう属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるやは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③本種は約500個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるやは寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種の幼虫は日本の主要作物であるちやの葉を加害し、時に大きな被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②物理的防除法、化学的防除法生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫である。卵は1.25×1mmの扁平な卵を1卵ずつ葉の表面に産卵する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	27	<i>Macroplectra nararia</i>	チョウ目 イラガ科	ばら	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるやは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③本種は約500個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるやは寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種の幼虫は日本の主要作物であるちやの葉を加害し、時に大きな被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②物理的防除法、化学的防除法生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵は1.25×1mmの扁平な卵を1卵ずつ葉の表面に産卵する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果		
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		評価					理由	
							理由	理由		理由	理由										
昆虫	27	<i>Macroplectra nararia</i>	チョウ目 イラガ科	ばら属	切り花	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉に数個産み付けるが、卵を産みつけられた葉は異状を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるちやば北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はインドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③本種は約500個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちやを寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種の幼虫は日本の主要作物であるちやの葉を加害し、時に大きな被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②物理的防除法、化学的防除法生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫である。卵は1.25×1mmの扁平な卵を1卵ずつ葉の表面に産卵する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	かえで属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①さとうかえでの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	こなら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	ぶな属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	みずき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されるため、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に繭を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	評価					理由
							評価	理由	評価	理由										
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	りんご属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は枝に帯状に産み付けられ、幼虫は若芽や葉を外部より食害する。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に嚢を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	28	<i>Malacosoma disstria</i>	チョウ目 カレハガ科	米材	木材	高	高	①かえで属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入され、成虫は長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なはこやなぎ属に寄生し、幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA1リストに掲載。化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び蛹である。蛹の大きさは約20mmで、樹皮の割れ目に嚢を作りそこで蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	こなら属	栽培用種子及び 栽植用植物	高	高	①こなら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかしの重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA2リストに掲載されている。化学的防除法が開発されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	さくら属	栽培用種子及び 栽植用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかしの重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA2リストに掲載されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	なし属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかしの重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA2リストに掲載されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	ばら	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかしの重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPQのA2リストに掲載されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	ばら属	栽植用植物	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかし類の重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに掲載されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかし類の重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに掲載されている。化学的防除が開発されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	29	<i>Malacosoma parallela</i>	チョウ目 カレハガ科	りんご属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①りんご属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵の状態で越冬できるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉を加害し、農業作物以外ではかし類の重要な害虫である。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに掲載されている。化学的防除が開発されている。日本には同属のオビカレハがリンゴの葉を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹である。卵は1.1×0.8mmであり、寄主植物の枝に帯状に産み付けられる。幼虫の体長はふ化直後では2-2.5mm、蛹化前は40-50mmに達する。幼虫は枝上に営巣する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	30	<i>Mamestra configurata</i>	チョウ目 ヤガ科	あぶらな属	雑品	無視	無視	①セイヨウアブラナで重要視されている害虫であるが、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	30	<i>Mamestra configurata</i>	チョウ目 ヤガ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①セイヨウアブラナで重要視されている害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉裏に卵塊を産みつけ、生育期に幼虫が茎の内部にせん孔するなどして植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	30	<i>Mamestra configurata</i>	チョウ目 ヤガ科	いんげん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊を葉の裏面に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に200-200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕作的防除法、生物的防除法が開発されている。日本では同属のヨトウガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20-200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	いんげん属	豆類	無視	無視	①いんげんまめのマイナーな害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	うまごやし属	雑品	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	えんどう豆	豆類	無視	無視	①えんどう豆のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記述はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	キャベツ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊を葉の裏面に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に20～200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、生物的防除法が開発されている。日本では同属のヨトウガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20～200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	キャベツ(ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む)	野菜	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に20～200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、生物的防除法が開発されている。日本では同属のヨトウガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20～200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	たばこ属	嗜好香辛料等	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	てんさい	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①てんさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊を葉の裏面に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に20～200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、生物的防除法が開発されている。日本では同属のヨトウガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20～200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	まん延の可能性							
							理由	理由	理由	理由									
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊を葉の裏面に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に20～200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種の防除法、生物学的防除法が開発されている。日本では同属のヨトウガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20～200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	とうもろこし属	栽培用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	－	－	－	無視	－	－	－	－	否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	ばれいしょ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉裏に産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるなたねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉裏に20～200個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で休眠して越冬し、翌春には成虫が羽化するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種の幼虫は日本の主要な作物であるなたねの茎・葉・生長点を加害し、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種の防除法、生物学的防除法が開発されている。日本では同属のヨウワガをはじめ、多数のチョウ目がアブラナ科植物の害虫として知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵及び幼虫である。卵の大きさは不明であるが、20～200個の卵塊で生み付けられる。幼虫は葉を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	レンズ豆	豆類	無視	無視	①レンズ豆のマイナーな害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	－	－	－	無視	－	－	－	－	否		
昆虫	30	Mamestra configurata	チョウ目 ヤガ科	穀類	穀類	無視	無視	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	－	－	－	無視	－	－	－	－	否		
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	いちご	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちごは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④いちごは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40～50mm、成虫は約23～30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	かえで属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①かえで属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえで属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40～50mm、成虫は約23～30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由					
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	からまつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①からまつのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④からまつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	くり	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から食害するため、土壌除去等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④くりは栽培用植物として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品としての移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	くり	嗜好香辛料等	無視	無視	①くりのマイナーな害虫であるが、種子を加害するとの記述はないことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-			否		
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	こなら属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①こなら属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	こむぎ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	こむぎ属	雑穀品	低	低	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えられから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種の成虫は中距離飛翔する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫は約23-30mmであり、植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	てんさい	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①てんさいの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④てんさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。(参考)②耕種の、化学的及び生物学的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメビロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由					
							理由	理由											
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、 腐敗、その他の異常により一緒に除去され る可能性が高いことから、既存の管理手続 きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入さ れることから、寄主植物に移動する可能性 は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成 虫である。終齢幼虫の体長は40- 90mm、成虫は約23-30mmであり、 幼虫、成虫とも植物を外部から加 害するため、輸出入検査(目視検 査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	とうもろこし	野菜	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③成虫が葉を外部から食害し、収穫・選別 の過程で除去される可能性が高いため、 既存の管理手続きに耐えて生き残る可能 性は中程度。 ④とうもろこしは消費用として輸入される が、本種は中距離飛翔することから、寄 主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。 成虫は約23-30mmであり、植物を 外部から寄生する。輸出入検査 (目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	ばれいしょ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ばれいしょの主要な害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、 腐敗、その他の異常により一緒に除去され る可能性が高いことから、既存の管理手続 きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽培用植物として輸入さ れることから、寄主植物に移動する可能性 は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成 虫である。終齢幼虫の体長は40- 50mm、成虫は約23-30mmであり、 幼虫、成虫とも植物を外部から加 害するため、輸出入検査(目視検 査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	ぶどう属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ぶどう属の主要な害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、 腐敗、その他の異常により一緒に除去され る可能性が高いことから、既存の管理手続 きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入され ることから、寄主植物に移動する可能性は 極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成 虫である。終齢幼虫の体長は40- 50mm、成虫は約23-30mmであり、 幼虫、成虫とも植物を外部から加 害するため、輸出入検査(目視検 査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	ぶな属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、 腐敗、その他の異常により一緒に除去され る可能性が高いことから、既存の管理手続 きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶな属は栽培用植物として輸入され ることから、寄主植物に移動する可能性は 極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成 虫である。終齢幼虫の体長は40- 50mm、成虫は約23-30mmであり、 幼虫、成虫とも植物を外部から加 害するため、輸出入検査(目視検 査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	ホップ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ホップのマイナーな害虫であり、発 生国の原産地で品目に寄生している可能 性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関す る記述はない。 ③幼虫は根を外部から食害するため、傷、 腐敗、その他の異常により一緒に除去され る可能性が高いことから、既存の管理手続 きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽培用植物として輸入され ることから、寄主植物に移動する可能性は 極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれい しょは全国で栽培されていることから、本 種が日本の寄主植物を利用できる可能性は 極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布す ることから、日本の環境への適応性は極め て高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことか ら、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本 種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着 後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害 を与える病害虫であり、また、樹 木の育苗圃の最重要害虫でもあ る。直接の影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生 物的防除法が知られている。日本 ではばれいしょの害虫として本種 と同科のヒメビロウドコガネ等が知 られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布していた め。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成 虫である。終齢幼虫の体長は40- 50mm、成虫は約23-30mmであり、 幼虫、成虫とも植物を外部から加 害するため、輸出入検査(目視検 査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	理由	評価	理由				
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	まつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①おうしゅうあかまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生物的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	もみ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①もみ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生物的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	31	Melolontha melolontha	コウチュウ目 コガネムシ科	りんご属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちご、ばれいしょは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチア、スイス、トルコ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は一度に約24個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫、蛹で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はばれいしょに甚大な被害を与える病害虫であり、また、樹木の育苗圃の最重要害虫でもある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的及び生物的防除法が知られている。日本ではばれいしょの害虫として本種と同科のヒメロウドコガネ等が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。終齢幼虫の体長は40-50mm、成虫は約23-30mmであり、幼虫、成虫とも植物を外部から加害するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	Murgantia histrionica	カメムシ目 カメムシ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に葉及び花を吸汁加害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉碎等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	32	Murgantia histrionica	カメムシ目 カメムシ科	いんげん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	Murgantia histrionica	カメムシ目 カメムシ科	きく	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		理由				
							理由	理由		理由	理由								
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	きく属	栽植用植物	中	中	①きくを加害するが、マイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は枝上、葉の裏面に産みつけられるが、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・種木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	キャベツ	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー及びコラードの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	キャベツ(ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む)	野菜	極低	極低	①キャベツ等で重要視されている害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の移動は短距離飛翔に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	だいこん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	だいこん	嗜好香辛料等	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に葉及び花を吸汁加害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-			否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性			評価	まん延の可能性					
							理由	理由		理由	理由								
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	てんさい	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①てんさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	どうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①どうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④どうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	トマト	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	なす	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	はくさい	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①はくさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	ばら	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種の防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		評価					理由
							評価	理由		評価	理由		理由		理由					
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	ばら属	栽培用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵塊は枝上、葉の裏面に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・種木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	ばら属	切り花	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝上に卵塊として産みつけられることから、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離飛翔に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	びわ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	ぶどう属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	レタス	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の裏側に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	32	<i>Murgantia histrionica</i>	カメムシ目 カメムシ科	レタス	野菜	極低	極低	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③レタスの結球部のすき間に寄生し、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④レタスは消費用として輸入され、本種の移動は短距離飛翔に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるブロッコリー、キャベツは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種はアブラナ科植物の茎、葉を吸汁する重要な被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。国内では同科のナガメがアブラナ科植物を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし		要	全ての態が経路に関係する。成虫の体長は8-11.5mmで葉などから吸汁する。また、卵の大きさは不明であるが、卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由		理由					理由
							評価	理由		理由	理由									
ダニ	33	<i>Oligonychus peruvianus</i>	ダニ目 ハダニ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるぶどうを寄主として利用できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は風により分散するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要作物であるぶどう等を加害するが、本種の被害は他のハダニに比較して軽いとされており、直接的影響は中程度。 (参考)②日本には同科のナミハダニ等が既発生。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	キャッサバ以外の寄主植物に対する被害及び本種単独による被害に関する情報がないため、経済的重要性①の評価については、不確実性を伴う。	要	全ての態が経路に関係する。寄主植物を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
ダニ	33	<i>Oligonychus peruvianus</i>	ダニ目 ハダニ科	にんじん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①にんじんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるぶどうを寄主として利用できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は風により分散するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要作物であるぶどう等を加害するが、本種の被害は他のハダニに比較して軽いとされており、直接的影響は中程度。 (参考)②日本には同科のナミハダニ等が既発生。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	キャッサバ以外の寄主植物に対する被害及び本種単独による被害に関する情報がないため、経済的重要性①の評価については、不確実性を伴う。	要	全ての態が経路に関係する。寄主植物を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
ダニ	33	<i>Oligonychus peruvianus</i>	ダニ目 ハダニ科	ぶどう属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるぶどうを寄主として利用できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種は風により分散するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種は日本の主要作物であるぶどう等を加害するが、本種の被害は他のハダニに比較して軽いとされており、直接的影響は中程度。 (参考)②日本には同科のナミハダニ等が既発生。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	キャッサバ以外の寄主植物に対する被害及び本種単独による被害に関する情報がないため、経済的重要性①の評価については、不確実性を伴う。	要	全ての態が経路に関係する。寄主植物を外部より加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	かえで属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かえで属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	かき	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	からまつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ヨーロッパからまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							理由	理由											
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	くり	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④くり風は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	こなら風	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①こなら風の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら風は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	さくら風	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら風のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら風は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	つつじ風	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①つつじ風のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④つつじ風は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	どうもろこし	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①どうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④どうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の茎の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	なし風	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし風は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由			評価	理由					
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	ばら	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた萼上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	ばら属	栽植用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は葉を食害するため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属は苗木・樹木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	ひのき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぬまひのきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた萼上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ひのき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	ぶな属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた萼上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	ホップ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ホップのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた萼上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の葉の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orgyia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	まつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ストロープまつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた萼上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の萼の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の萼の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結果		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							理由	理由											
昆虫	34	<i>Orygia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	みずき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orygia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	もみ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①パルサムもみの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	34	<i>Orygia leucostigma</i>	チョウ目 ドクガ科	りんご属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は自分の繭の表面に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①りんごの葉や芽を食害し主要な被害を与える。直接的影響は高い。 (参考)②生物学的防除及び化学的防除が開発されている。国内では同属のヒメモンシロドクガがりんごを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵の大きさは不明であるが、寄主植物の枝や樹皮の繭の表面に産み付けられる。幼虫は葉を激しく食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	がまずみ属	切り花	極低	極低	①がまずみ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が葉の表面に生息し、収穫などの刺激により落下するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④がまずみ属切り花は消費用として輸入され、本種成虫の自力による移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物学的防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫は葉を食害し、体長は7-12mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	きづた属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きづた属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きづた属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物学的防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	くり	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④くりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物学的防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							評価	理由	評価	理由		理由		理由		理由				
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	つつじ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①つつじ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	とべら属	切り花	極低	極低	①とべら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が葉の表面に生息し、収穫などの刺激により落下するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とべら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は成虫である。成虫は葉を食害し、体長は7-12mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	はしどい属	切り花	極低	極低	①はしどい属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が葉の表面に生息し、収穫などの刺激により落下するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はしどい属切り花は消費用として輸入され、本種成虫の自力による移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は成虫である。成虫は葉を食害し、体長は7-12mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ぶな材	木材	極低	極低	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶな属木材は消費用として輸入され、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は成虫である。成虫は外部寄生であり、体長は7-12mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ぶな属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とし、幼虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する際は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	まつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①まつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるまつ属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するまつ属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	35	<i>Otiorhynchus armadillo</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	みずき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるみずき属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は長期間土中に産卵を続けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるみずき属を寄主植物とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔できず、歩行のみで移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種の幼虫は日本に広く存在するみずき属などの根を加害するため、重大な被害をおよぼす可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物防除法が知られている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	いちご	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①いちご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすきに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	かえで属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きょうかえでのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすきに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	キウイフルーツ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすきに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	きつた属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きつた属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きつた属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすきに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	すぎ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①すぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④すぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ダリア属	栽植用球根	中	中	①ダリア属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が球根に食入するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ダリア属は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。幼虫は体長9-11mmで、植物体を外部から食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	つつし属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①つつし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④つつし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	はしどい属	切り花	極低	極低	①はしどい属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫のみが寄生する可能性があり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はしどい属切り花は消費用として輸入され、本種成虫の自力による移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は8-15mmで、葉などを食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ばら	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ばら属	栽植用植物	低	低	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は葉を、幼虫は根を食害するが、土壌除去のための水洗により容易に除去可能なため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばら属は苗木・樹木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶え間なく産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすばに被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除及び生物防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	はら属	切り花	極低	極低	①はらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫のみが寄生する可能性があり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はら属切り花は消費用として輸入され、成虫の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶えず産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすくなく被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種防除及び生物的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は8-15mmで、葉などを食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	36	<i>Otiorhynchus salicicola</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	みずき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は夏の間に絶えず産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土中で多年生植物の根を食害し、屋外で越冬する。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①本種はいちごなどの根、茎、葉を加害する。農作物以外ではすくなく被害を及ぼす。直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除、耕種防除及び生物的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉を食害する。成虫の体長は8-15mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	からまつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①からまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉や枝を食害する。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	つつじ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①つつじ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉や枝を食害する。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ひのき属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ロソソビのきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ひのき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目ゾウムシ科	ぶな材	木材	極低	極低	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶな属木材は消費用として輸入される。本種の移動能力に関する記述はないが、同属の <i>O. armadillo</i> は飛翔できないことから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ふな属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ふな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ふな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトドマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉や枝を食害する。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	ホップ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ホップの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトドマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉や枝を食害する。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	もみ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①もみ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトドマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫は根を食害し、成虫は葉や枝を食害する。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	米材	木材	極低	極低	①もみ属及びとうひ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入され、本種は歩行により短距離移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトドマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	37	<i>Otiorhynchus singularis</i>	コウチュウ目 ゾウムシ科	北洋材	木材	極低	極低	①もみ属及びとうひ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入され、本種は歩行により短距離移動すると考えられるため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるラズベリーは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス、イタリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①ラズベリーに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除が効果的である。日本では同目のカラマツコキウムシやトドマツコキウムシがとうひの樹皮下を加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の飛翔の有無に関する記述はない。 <i>Otiorhynchus armadillo</i> 等、本属の多くの種は飛翔しない。	要	経路に関係する態は成虫である。成虫の体長は5.5-7.5mmである。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメシ目 コナカイガラムシ科	あずき	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①あずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の有害動植物管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④あずきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30°以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ろう状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		理由	理由				
							評価	理由	理由										
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	アボカド	生果実	極低	極低	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の移動は一齢幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	いんげん	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①オレンジのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	かんきつ属	生果実	極低	極低	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は一齢幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	さつまいも	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ししとうがらし	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に關係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ししとうがらし	嗜好香辛料等	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害すると記述はないことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	トマト	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	トマト	野菜	極低	極低	①トマトのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	中	高	①なすの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ハインツァプル	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①ハインツァプルのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ハインツァプルは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	はら	栽培用種子及び栽培用植物	低	中	①はらのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	はら	栽培用植物	低	中	①はらのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はらは苗木・樹木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30° 以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査 (目視検査) で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価		入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
								理由		理由									
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラ ムシ科	ばら属	切り花	極低	極低	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は一齢幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30°以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	38	<i>Paracoccus marginatus</i>	カメムシ目 コナカイガラ ムシ科	マンゴウ	生果実	極低	極低	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は一齢幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主植物であるなすは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコ、キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はなす等の葉、果実を吸汁し被害を及ぼす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②伝統的な生物学的防除法として寄生蜂による防除が開発されている。国内では同科のミカンコナカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	北緯30°以北の地域では低温により死滅する可能性がある旨記述あり。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は2.5-4mmで、卵の大きさは不明であるが、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。また、孵化した幼虫は約0.3mmで移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ 科	いんげん	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いんげんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばいれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ハルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ 科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばいれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ハルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ 科	さつまいも	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばいれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ハルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ 科	さとうきび	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばいれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ハルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由		理由		理由		理由			
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②バルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ばしう属	雑品	極低	低	①バナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は植物体を外部から食害し、収穫・選果の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばしう属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	低	①本種の寄主であるばれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②バルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は成虫である。葉を外部から食害するため輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	39	<i>Phyllophaga smithi</i>	コウチュウ目 コガネムシ科	ばれいしょ	栽培用種子及び 栽培用植物	極低	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の寄主であるばれいしょ、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②バルバドス、トリニダード・トバコに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中に生息するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①幼虫がさとうきび等の根を食害し、収量減等の被害を与えるため、直接的影響は高い。 (参考)②Tiphia parallela(コツチバチ科)による生物的防除法が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。幼虫の体長は4-5cmに達する。幼虫、成虫ともに植物を外部から加害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	40	<i>Planococcus kenyae</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約50～200個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつ類を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②シンガポールにおいて輸入禁止対象害虫とされている。化学的及び生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のミカンコナカイガラムシ、フジコナカイガラムシ等が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	カカオの病害cacao swollen shoot diseaseを媒介することが知られている。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.4-2.7mmであり外部から加害する。卵の大きさは不明である。3齢幼虫までは活発に移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	40	<i>Planococcus kenyae</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	さつまいも	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約50～200個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつ類を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②シンガポールにおいて輸入禁止対象害虫とされている。化学的及び生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のミカンコナカイガラムシ、フジコナカイガラムシ等が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	カカオの病害cacao swollen shoot diseaseを媒介することが知られている。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.4-2.7mmであり外部から加害する。卵の大きさは不明である。3齢幼虫までは活発に移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	40	<i>Planococcus kenyae</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	さとうきび	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約50～200個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかんきつ類を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②シンガポールにおいて輸入禁止対象害虫とされている。化学的及び生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のミカンコナカイガラムシ、フジコナカイガラムシ等が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	カカオの病害cacao swollen shoot diseaseを媒介することが知られている。	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は1.4-2.7mmであり外部から加害する。卵の大きさは不明である。3齢幼虫までは活発に移動する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由	評価	理由				
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	かえで属	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①西洋かしかえでのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は葉や芽を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	かき	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	かんきつ属	栽培用種子及び 栽植用植物	低	中	①オレンジのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	かんきつ属	生果実	低	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実外部を食害するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により5-10km移動するとの報告があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	キウイフルーツ	栽培用種子及び 栽植用植物	中	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	キウイフルーツ	生果実	低	中	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実外部を食害するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により5-10km移動するとの報告があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。直接の影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシクイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		理由	理由				
							評価	理由	理由		理由								
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。 直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシキイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	なし属	栽植用種子及び栽植用植物	中	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は、卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。 直接的影響は極めて高い。 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	ぶどう	生果実	低	中	①ぶどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実外部を食害するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により5-10km移動するとの報告があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。 直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシキイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫である。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	ぶどう属	栽植用種子及び栽植用植物	中	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。 直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではリンゴコカクモンハマキ、ナンヒメシシキイがりんご、ももを加害する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	41	<i>Proeulia chrysopteris</i>	チョウ目 ハマキガ科	りんご属	栽植用種子及び栽植用植物	中	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を葉の表面に塊で産み付けるが、卵を産み付けられた葉や果実は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は10-15個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は一齢幼虫が樹皮の隙間で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により5-10km移動するとの報告があり定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごやもも、キウイフルーツ等を食害し、甚大な被害を与える。 直接的影響は極めて高い。 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は葉の表面に産み付けられる。終齢(5齢)幼虫の大きさは16-18mmで幼虫は果実表面を食害し、枝上で蛹化する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。		
昆虫	42	<i>Pseudotheraptus wayi</i>	カメムシ目 ヘリカメムシ科	びわ	栽植用種子及び栽植用植物	低	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は生果実、茎、花等に産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①本種の寄主植物であるびわは関東以西で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②南アフリカ共和国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③各雌は平均100個産卵し、寄主植物上の生果実、茎上に点状で産卵するので、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の飛翔距離は不明であるが、短距離飛翔と考えると考えられたため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	高	①南アフリカ共和国ではグアバの経済的な重要害虫となり、果皮に小穴状の傷害を与えることから、直接的影響は高い。 (参考)②シンガポール共和国では本種及び本種が付着する植物及び植物生産物の輸入が禁止されている。生物学的、化学的防除が開発されている。日本にはびわの新梢を寄主とする同科のツマキヘリカメムシが発生している。	関東以西 (理由: 本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは1.5mmで果実、小枝や花柄に一つずつ産み付けられる。幼虫および成虫は果実を吸汁加害する。成虫の体長は15mmとなる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	理由				
							評価	理由	評価	理由									
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	かんきつ属	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ちや	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ちやのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちやは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ドリアン	生果実	極低	極低	①ドリアンのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドリアン生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	はしよう属	雑品	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④はしよう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	はしよう属	生果実	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はしよう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	バナナ花房	野菜	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④バナナ花房は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすず病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は 3.6-4.4mm、卵の大きさは 0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由			評価	理由					
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ばら	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵囊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすす病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は3.6-4.4mm、卵の大きさは0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ばら属	切り花	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵囊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすす病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は3.6-4.4mm、卵の大きさは0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ばら属	切り花	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵囊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすす病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は3.6-4.4mm、卵の大きさは0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	43	<i>Rastrococcus iceryoides</i>	カメムシ目 コナカイガラムシ科	ぶどう属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばら属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵囊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつの葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるかんきつ類を加害することから、直接の影響は極めて高い。果実の早期落下やすす病を生じる。 (参考)②生物学的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	全ての態が経路に関係する。雌成虫の体長は3.6-4.4mm、卵の大きさは0.24×0.15mmで、ロウ状物質に覆われた卵塊で産み付けられる。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤママユガ科	いちご	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接の影響は中程度である。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤママユガ科	こなら属	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接の影響は中程度である。 (参考)②化学的防除が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							理由	理由											
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	さくら属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	なし属	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	ばら	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	ばら属	栽植用植物	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用途として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムシガ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用途として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由					
							評価	理由		理由										
昆虫	44	<i>Saturnia pavonia</i>	チョウ目 ヤマムギ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は枝に産み付けられるが、卵を産み付けられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは国内で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵からなる卵塊を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④落葉樹であるりんご、なしの葉を寄主とするが、蕾で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	中	①りんごの葉を食害する被害があるが、突発的な大発生を起こさない限りは経済的なダメージは軽微であるため、直接的影響は中程度。(参考)②化学的防除法が開発されている。日本ではりんごにおいて本種と同目のヤガ科害虫9種が存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は1.4×2.2mmであり、卵塊で産み付けられる。幼虫はふ化直後は体長2-3mmであり、また、集団を形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	45	<i>Saturnia pyri</i>	チョウ目 ヤマムギ科	さくら属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③枝や葉裏に産卵するが、産み付けられた部分は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉、枝等に微小な卵を多数産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④蕾で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	中	①通常、りんごやなしに対する本種の経済的影響は小さいが、まれに大発生し、被害を与えることがある。直接的影響は中程度。(参考)②本種の防除は果樹の害虫に対する通常の薬剤散布で可能。日本にはりんごの葉を食害する同属のクスサンが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は枝や葉裏に産下され、幼虫は葉を食害する。樹の根元付近で蛹化するものが多いが、樹上で蛹化するものもある。卵の大きさは約2.0×2.5mm、ふ化幼虫の体長は5-6mm、老熟幼虫は90-100mm、蛹は35-50mm。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	45	<i>Saturnia pyri</i>	チョウ目 ヤマムギ科	なし属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③枝や葉裏に産卵するが、産み付けられた部分は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉、枝等に微小な卵を多数産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④蕾で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	中	①通常、りんごやなしに対する本種の経済的影響は小さいが、まれに大発生し、被害を与えることがある。直接的影響は中程度。(参考)②本種の防除は果樹の害虫に対する通常の薬剤散布で可能。日本にはりんごの葉を食害する同属のクスサンが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は枝や葉裏に産下され、幼虫は葉を食害する。樹の根元付近で蛹化するものが多いが、樹上で蛹化するものもある。卵の大きさは約2.0×2.5mm、ふ化幼虫の体長は5-6mm、老熟幼虫は90-100mm、蛹は35-50mm。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	45	<i>Saturnia pyri</i>	チョウ目 ヤマムギ科	はしどい属	切り花	中	中	①はしどい属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③枝や葉裏に産卵し、産み付けられた卵は収穫・選別の過程で除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はしどい属切り花は消費用途として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉、枝等に微小な卵を多数産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④蕾で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①通常、りんごやなしに対する本種の経済的影響は小さいが、まれに大発生し、被害を与えることがある。直接的影響は中程度。(参考)②本種の防除は果樹の害虫に対する通常の薬剤散布で可能。日本にはりんごの葉を食害する同属のクスサンが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は枝や葉裏に産下され、幼虫は葉を食害する。樹の根元付近で蛹化するものが多いが、樹上で蛹化するものもある。卵の大きさは約2.0×2.5mm、ふ化幼虫の体長は5-6mm、老熟幼虫は90-100mm、蛹は35-50mm。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	45	<i>Saturnia pyri</i>	チョウ目 ヤマムギ科	りんご属	栽培用種子及び 栽培用植物	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③枝や葉裏に産卵するが、産み付けられた部分は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉、枝等に微小な卵を多数産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④蕾で越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	中	①通常、りんごやなしに対する本種の経済的影響は小さいが、まれに大発生し、被害を与えることがある。直接的影響は中程度。(参考)②本種の防除は果樹の害虫に対する通常の薬剤散布で可能。日本にはりんごの葉を食害する同属のクスサンが存在する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫及び蛹である。卵は枝や葉裏に産下され、幼虫は葉を食害する。樹の根元付近で蛹化するものが多いが、樹上で蛹化するものもある。卵の大きさは約2.0×2.5mm、ふ化幼虫の体長は5-6mm、老熟幼虫は90-100mm、蛹は35-50mm。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	おおむぎ属	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布・分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移动の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。(参考)②昆虫寄生菌による生物防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由					
							評価	理由		理由										
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	ごま属	雑品	無視	無視	①ごま属の主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	こむぎ	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	こむぎ属	栽植用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	こむぎ属	雑品	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	さとうきび	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	とうもろこし	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由			評価	理由					
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	とうもろこし	野菜	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫及び幼虫が外部寄生し、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は成虫時に長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	とうもろこし属	栽植用種子	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否	-	
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	ぶどう属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこし、ぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア、ケニア、南アフリカ等に分布に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬季に温暖な地方へ飛翔して移動することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ぶどう等の葉を加害し、重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②昆虫寄生菌による生物学的防除、化学的防除が行われている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	わた属	雑品	無視	無視	①わた属の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否	-	
昆虫	46	<i>Schistocerca gregaria</i>	バッタ目 バッタ科	穀類	穀類	無視	無視	①おおむぎ、こむぎ、とうもろこし、モロコシの主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否	-	
昆虫	47	<i>Sitobion fragariae</i>	カメムシ目 アブラムシ科	いちご	栽植用種子及び栽植用植物	高	高	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちごは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、フランス、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うことから、繁殖能力は極めて高い。 ④いちごなどの1次寄主植物上で卵越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	低	①ブラックベリーで春先に新葉の変形を生じさせるが、減収等を引き起こすことはまれであるため、直接的影響は低い。 (参考)②生物学的防除法がある。日本ではいちごを加害する同属のムギヒゲナガアブラムシがいる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Barley yellow dwarf virus (BYDV)等を媒介することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の大きさは不明であるが、雌成虫は約1.9mm、雄成虫は約2.4mmである。いずれの態も寄主植物に外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	47	<i>Sitobion fragariae</i>	カメムシ目 アブラムシ科	えん麦	雑品	無視	無視	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否	-	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価		定着の可能性		評価	理由	評価	理由	評価	理由				
						評価	理由	評価	理由										
昆虫	47	<i>Sitobion fragariae</i>	カメムシ目 アブラムシ科	おおむぎ属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちごは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、フランス、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うことから、繁殖能力は極めて高い。 ④いちごなどの1次寄主植物上で卵越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	低	①ブラックベリーで春先に新葉の変形を生じさせるが、減収等を引き起こすことはまれであるため、直接的影響は低い。 (参考)②生物学的防除法がある。日本ではいちごを加害する同属のムギヒゲナガアブラムシがいる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Barley yellow dwarf virus (BYDV)等を媒介することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の大きさは不明であるが、雌成虫は約1.9mm、雄成虫は約2.4mmである。いずれの態も寄主植物に外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	47	<i>Sitobion fragariae</i>	カメムシ目 アブラムシ科	こむぎ	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいちごは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、フランス、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うことから、繁殖能力は極めて高い。 ④いちごなどの1次寄主植物上で卵越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	低	①ブラックベリーで春先に新葉の変形を生じさせるが、減収等を引き起こすことはまれであるため、直接的影響は低い。 (参考)②生物学的防除法がある。日本ではいちごを加害する同属のムギヒゲナガアブラムシがいる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Barley yellow dwarf virus (BYDV)等を媒介することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	全ての態が経路に関係する。幼虫の大きさは不明であるが、雌成虫は約1.9mm、雄成虫は約2.4mmである。いずれの態も寄主植物に外部寄生するため、輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	47	<i>Sitobion fragariae</i>	カメムシ目 アブラムシ科	こむぎ属	雑穀	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目 ミノガ科	かえて属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①かえて属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノノの葉をつくり、葉や花を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえて属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雄成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②Bt剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および雌成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫はみのを形成するため輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目 ミノガ科	こなら属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①こなら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノノの葉をつくり、葉を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雄成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②Bt剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および雌成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中に500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目 ミノガ科	さくら属	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノノの葉をつくり、葉や花を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雄成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②Bt剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および雌成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中に500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目 ミノガ科	ばら	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①ノイバラの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノノの葉をつくり、葉や花を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雄成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②Bt剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および雌成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中に500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							理由	理由											
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目ミノガ科	ばら属	栽植用植物	中	中	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノ状の巣をつくり、葉や花を食害するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②産成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②B剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および産成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目ミノガ科	ふな属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ふな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノ状の巣をつくり、葉や花を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ふな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②産成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②B剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および産成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	48	<i>Thyridopteryx ephemeraeformis</i>	チョウ目ミノガ科	まつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①ストロップまつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫はミノ状の巣をつくり、葉や花を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③枝に付着したミノの内部に500-1000個の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②産成虫は飛翔により中距離移動する能力があるほか、幼虫は風に乗り移動できる。定着後の自然分散の可能性は高い。	低	低	①ももの葉や花などを食害するが、被害の程度は小さく、直接的影響は低い。 (参考)②B剤による生物学的防除のほか、化学的防除及び耕種的防除が開発されている。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は卵、幼虫、蛹および産成虫である。卵の大きさは0.5-1.0mmで、みの中500-1,000個産み付けられる。若齢幼虫は0.1-0.25mmであるが、みのを形成する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメシ目コナジラミ科	いんげん	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検疫要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリヤ諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメシ目コナジラミ科	きゅうり	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検疫要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリヤ諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメシ目コナジラミ科	さつまいも	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検疫要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリヤ諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての態が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							評価	理由	評価	理由		評価	理由		理由					
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	トマト	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	なす	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ばら	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ばら属	栽培用植物	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・種木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ばら属	切り花	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ばれいしよ	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①ばれいしよのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏側に卵塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしよは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつつし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を生じ、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミヤンマー連邦は自国への輸入に関し、検査要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオンシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての懸が経路に関係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を量したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							理由	理由	理由	理由										
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ベゴニア属	栽植用球根	無視	無視	①ベゴニア属のマイナーな害虫であるが、球根には寄生しないため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-	無視	-					否		
昆虫	49	<i>Trialeurodes ricini</i>	カメムシ目 コナジラミ科	ベゴニア属	栽植用植物	中	中	①ベゴニアのマイナーな害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうりは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物の葉裏等に微小な卵(0.2×0.08mm)を多数付着させ卵塊を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主であるつづし属は常緑で年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要作物であるきゅうりの葉から吸汁加害し、葉の萎凋、黄化及び壊死並びに葉に甘露及びすす状を呈し、重要な損失を生じることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ミャンマー連邦は自国への輸入に關し、検疫要求事項に特に注意すべき病害虫としてコナジラミ類を明記し輸出国に要求している。化学的防除方法の報告がある。日本国内にはきゅうりに寄生する同属のオアシツコナジラミが発生する。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	エジプト発生の本種とカナリー諸島発生の本種ではウイルス伝搬能力において遺伝的差異が示唆される。	要	全ての卵が経路に關係する。卵の大きさは約0.2mm×0.08mmであり、集団で産み付けられる。幼虫及び蛹も微小であるが、本種に寄生された植物はすすかび症状を呈したり、葉の褐変・しおれを起こす。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンパハツタ科	あぶらな属	雑品	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、あぶらな属への寄生については不明であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-	無視	-					否		
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンパハツタ科	あぶらな属	嗜好香辛料等	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、あぶらな属への寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生し、収穫後の乾燥処理等によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-	無視	-					否		
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンパハツタ科	カシューナッツ	嗜好香辛料等	無視	無視	①カシューナッツの主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-	無視	-					否		
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンパハツタ科	かぼちゃ	栽植用種子及び栽植用植物	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であったまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に關係する卵は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンパハツタ科	かんきつ属	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であったまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に關係する卵は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由		評価	理由						
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	キャベツ	栽植用種子及び栽植用植物	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、キャベツ等への寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	きゅうり	栽植用種子及び栽植用植物	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、きゅうりへの寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	コーヒー風	嗜好香辛料等	無視	無視	①コーヒー風の主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	さつまいも	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さつまいもの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	さといも	栽植用種子及び栽植用植物	中	中	①さといもの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さといもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	ししとうがらし	栽植用種子及び栽植用植物	低	低	①ナス科の主要な害虫であるが、ししとうがらしの害虫としての情報は不確実であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	ししとうがらし	嗜好香辛料等	無視	無視	ナス科の主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-	

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							理由	理由		理由									
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	すいか	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、すいかへの寄生については不明であるため、発生国原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④すいかは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	だいこん	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④だいこんは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	だいこん	嗜好香辛料等	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	たばこ属	嗜好香辛料等	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	無視	-	-	-	-	否		
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	たまねぎ	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	トマト	栽培用種子及び 栽培用植物	低	低	①ナス科の主要な害虫であるが、トマトの害虫としての情報は不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマトは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		評価	定着の可能性		評価	理由	理由	理由				
							理由	理由		理由									
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	なす	栽培用種子及び 栽植用植物	低	低	①ナス科の主要な害虫であるが、なすへの寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	にんじん	栽培用種子及び 栽植用植物	中	中	①にんじんの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	パイナップル	栽植用種子及び 栽植用植物	中	中	①パイナップルの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④パイナップルは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	はくさい	栽植用種子及び 栽植用植物	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、はくさいへの寄生については不明であるため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	ばしょう属	雑品	低	低	①バナナの主要な害虫であり、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉を食害することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、本種の成虫は中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。
昆虫	50	<i>Zonocerus elegans</i>	ハツタ目 オンブハツタ科	ばれいしょ	栽植用種子及び 栽植用植物	低	低	①ナス科の主要な害虫であるが、ばれいしょへの寄生については不明なため、発生源の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎や葉を外部から食害するが、収穫作業などの刺激により逃げたり、落ちたりすることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるたまねぎ、にんじん、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ウガンダに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ類を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①日本の主要作物であるにんじん、かんきつ類等の果実、花部、葉、茎等様々な部位を食害し、経済的な影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアの検疫病害虫リストに掲載されている。殺虫剤による防除について報告がある。かんきつ類を加害する同科のツチイナゴが日本に発生している。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する態は幼虫及び成虫である。成虫の体長は30-52mmであり、寄主植物を外部から摂食する。輸出入検査(目視検査)で対応可能。

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		えん麦	雑品	無視	無視	①えん麦のマイナーな病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入されることが及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		おおむぎ属	栽培用種子	中	中	①おおむぎ属のマイナーな病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、おおむぎ属は栽培用種子として輸入されことから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収獲物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由: 本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		おおむぎ属	栽培用種子及び栽培用植物	中	中	①おおむぎのマイナーな病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽培用植物として輸入されことから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収獲物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由: 本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		からすむぎ属	栽培用種子	中	中	①からすむぎ属のマイナーな病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、からすむぎ属は栽培用種子として輸入されことから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収獲物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由: 本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		こむぎ	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①こむぎ属の主要な病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されことから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収獲物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由: 本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		こむぎ属	栽培用種子	高	高	①こむぎ属の主要な病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、こむぎ属は栽培用種子として輸入されことから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収獲物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由: 本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria triticina</i>		こむぎ属	雑品	無視	無視	①こむぎ属の主要な病原体であり、発生源の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されることが及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-			否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		まん延の可能性						
							評価	理由	評価	理由			評価	理由					
菌類	51	<i>Alternaria tritricina</i>		ばしう属	雑品	低	低	①バナナのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はバナナの葉に病斑を形成することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばしう属は消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria tritricina</i>		バナナ花房	野菜	低	低	①バナナのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はバナナの花序部分に病変を引き起こすことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④バナナ花序は消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①こむぎ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②種子の薬剤処理、抵抗性品種の利用等の防除方法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	51	<i>Alternaria tritricina</i>		穀類	穀類	無視	無視	①えん麦のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、粉砕により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されることが及び本種の伝染様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-				否			
菌類	52	<i>Claviceps gigantea</i>		とうもろこし	栽培用種子及び栽植用植物	中	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③- ④土壌中で変角として越冬可能なため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるとうもろこしに重大な被害を生じさせる可能性があり、穂に麦角等を形成することから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びシンガポールは本種を輸入禁止対象としている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	種子上に約7×3cmの菌核を形成するが、潜在感染することもあることから、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	52	<i>Claviceps gigantea</i>		とうもろこし属	栽培用種子	中	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥により影響を受けると判断される情報はない。菌核はとうもろこし種子より大きい、子葉胞子、分生子等は微小なため、精選の影響をうけない。よって、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽培用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③- ④土壌中で変角として越冬可能なため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるとうもろこしに重大な被害を生じさせる可能性があり、穂に麦角等を形成することから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びシンガポールは本種を輸入禁止対象としている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	種子上に約7×3cmの菌核を形成するが、潜在感染することもあることから、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
菌類	52	<i>Claviceps gigantea</i>		穀類	穀類	無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、粉砕により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されることが及び本種の伝染様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-				否			

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論		経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由					
							理由	理由	理由	理由										
菌類	53	<i>Stenocarpella macrospora</i>		とうもろこし	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは日本全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、南アフリカ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は植物残渣に感染して土壌伝播するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①とうもろこし等を枯死させる可能性があり、収獲物への直接的な被害があることから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②チュコは本種を栽培地検査対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
菌類	53	<i>Stenocarpella macrospora</i>		とうもろこし	野菜	低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは日本全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、南アフリカ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は植物残渣に感染して土壌伝播するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	①とうもろこし等を枯死させる可能性があり、収獲物への直接的な被害があることから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②チュコは本種を栽培地検査対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
菌類	54	<i>Tilletia indica</i>		こむぎ	栽培用種子及び栽培用植物	高	高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は冬胞子が土中に生き残り、重要な伝染源になるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①日本の主要な農作物であるこむぎの主要な病原体であり、種子に変色等の被害を及ぼすことから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の利用が効果的。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
菌類	54	<i>Tilletia indica</i>		こむぎ属	栽培用種子	高	高	①こむぎの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、こむぎ属は栽培用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は冬胞子が土中に生き残り、重要な伝染源になるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	①日本の主要な農作物であるこむぎの主要な病原体であり、種子に変色等の被害を及ぼすことから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の利用が効果的。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
菌類	54	<i>Tilletia indica</i>		こむぎ属	雑品	低	低	①こむぎの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加工により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されることが及び本種は風により伝播することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は冬胞子が土中に生き残り、重要な伝染源になるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	①日本の主要な農作物であるこむぎの主要な病原体であり、種子に変色等の被害を及ぼすことから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の利用が効果的。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
菌類	54	<i>Tilletia indica</i>		穀類	穀類	低	低	①こむぎの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入され、本種は風により伝播することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるこむぎは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は冬胞子が土中に生き残り、重要な伝染源になるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	①日本の主要な農作物であるこむぎの主要な病原体であり、種子に変色等の被害を及ぼすことから、直接の影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の利用が効果的。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	宿主植物に潜在感染することがあるため、輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。		
線虫	55	<i>Heterodera goettingiana</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	うまごやし属	雑品	無視	無視	①本種はうまごやしのマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 *無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-		
線虫	55	<i>Heterodera goettingiana</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	えんどう	野菜	無視	無視	①本種はえんどうの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 *無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	-	-	無視	-	-	-	否	-		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由	理由				
							理由	理由	理由	理由								
線虫	55	<i>Heterodera goettingiana</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	大豆(枝豆)	栽培用種子及び 栽培用植物	中	中	①大豆は日本の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③1つのシスト内に約100個の卵が入っているため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壤中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物である大豆やえんどう等の根を加害し、生長阻害や枯死を招くため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除等が用いられる。我が国では本種と同属のダイズシストセンチュウがいる。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸念は幼虫及び成虫である。成虫はシストを形成し根に外部寄生するが、幼虫が根の内部に侵入する。輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	いね	雑品	無視	無視	①いねの主要な害虫であるが、本種の寄生は根部、地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-	-	-	-	否		
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	いね(水稲)	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①いねのマイナーな害虫であるが、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に半内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いね(水稲)は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1つのシスト内に200-250個の卵が入っているため、繁殖能力は極めて高い。 ④土壤中に生息し、シストの状態で乾燥した中でも長期間生存可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の害虫として重要視されており、減収を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の導入が有効的である。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸念は幼虫及び成虫である。成虫はシストを形成し根に外部寄生するが、幼虫が根の内部に侵入する。輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	えん麦	雑品	無視	無視	①本種はえん麦のマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-	-	-	-	否		
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	おおむぎ属	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に半内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1つのシスト内に200-250個の卵が入っているため、繁殖能力は極めて高い。 ④土壤中に生息し、シストの状態で乾燥した中でも長期間生存可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の害虫として重要視されており、減収を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の導入が有効的である。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸念は幼虫及び成虫である。成虫はシストを形成し根に外部寄生するが、幼虫が根の内部に侵入する。輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	こむぎ	栽培用種子及び 栽培用植物	低	中	①こむぎのマイナーな害虫であるが、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に半内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一瞬に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽培用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1つのシスト内に200-250個の卵が入っているため、繁殖能力は極めて高い。 ④土壤中に生息し、シストの状態で乾燥した中でも長期間生存可能なことから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の害虫として重要視されており、減収を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②抵抗性品種の導入が有効的である。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	経路に関係する懸念は幼虫及び成虫である。成虫はシストを形成し根に外部寄生するが、幼虫が根の内部に侵入する。輸出入検査(目視検査)のみでの対応は困難であるが、輸入2次検査で対応可。
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	こむぎ属	雑品	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-	-	-	-	否		
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	スーダングラス	雑品	無視	無視	①本種はもろこし属のマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 * 無視できたとされたことから、以降の評価は中止する。	-	-	無視	-	-	-	-	否		

病害虫				対象植物		侵入の可能性				まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	リスク管理の要否	危険度管理措置に関する検討結果	
区分	病害虫番号	学名	分類	品目	用途	評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価		理由						
							評価	理由	評価	理由									
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	とうもろこし	栽培用種子及び 栽培用植物	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であるが、元土壌の 原産地で品目に寄生している可能性は 高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する 記述はない。 ③根部に半内部寄生し、傷、腐敗、その他の 異常により一緒に除去される可能性が低い ことから、既存の管理手続きに耐えて生 き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽培用植物として輸入され ることから、寄主植物に移動する可能性は 極めて高い。	高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培 されているため、本種が日本の寄主植物 を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド等に分布するため、日本の環境へ の適応性は高い。 ③1つのシスト内に200-250個の卵が入っ ているため、繁殖能力は極めて高い。 ④土壌中に生息し、シストの状態で乾燥土 壌中でも長期間生存可能なことから、日本 で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通する ため、定着後の人為的移動の可 能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限ら れるため、定着後の自然分散の 可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の害虫として重要 視されており、減収を及ぼすこと から、直接的影響は極めて高い (参考)②抵抗性品種の導入が有 効的である。	日本全域 (理由: 本種の寄主植物は 日本に広く分布しているた め。)	なし	要	経路に関する懸念は幼虫及び成 虫である。成虫はシストを形成し根 に外部寄生するが、幼虫が根の内 部に侵入する。輸出入検査(目視 検査)のみでの対応は困難である が、輸入2次検査で対応可。
線虫	56	<i>Heterodera zeae</i>	ティレンクス目 ヘテロデラ科	とうもろこし	野菜	無視	無視	①本種はとうもろこしの主要な害虫である が、寄生は根部・地下部に限定されるた め、発生国の原産地で品目に寄生してい る可能性は無視できる。 * 無視できるとされたことから、以降の評価 は中止する。	-	-	-	無視	-			否			